

2024. 3. 9

子どもの日本語教育研究会  
第9回大会 実践・研究発表

# CLD児の意欲を高める 絵本等の多読プロジェクト

沼津市立開北小学校

第一小学校

沢田小学校 Umi（国際室）の実践事例

静岡県沼津市立開北小学校  
生田 佳澄

# Umiとは？ Umiに込められた思い

- 小学校 国際室 取り出し教室の名前
- Umi 海組
- 子供の**可能性**は、海のように**広くて深い**  
可能性を共に探る場



沼津の海中にて筆者撮影

# CLD児

■ Culturally and Linguistically Diverse Students  
(カミンズ2011)

中島 訳

「文化的・言語的に多様な背景をもつ子どもの  
総称」

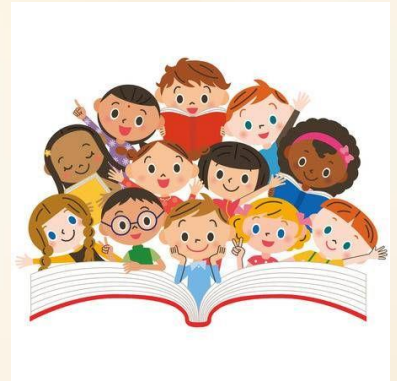
⇒ 強みとしてとらえたい



# 絵本等の多読プロジェクト

## ■ 目的

CLD児の**学習意欲を高め可能性を拓く**



## ■ 絵本等とは

- ① おはなし絵本（日本語に慣れる・発達）
- ② 写真絵本 （根拠を画像から探す）
- ③ 動画コンテンツ等（NHK for School等）

★精読でなく多読（多文化・多言語の強みを生かす）

★みんなで取り組む⇒取り組みやすさ・持続しやすさ

# 先行研究⇒個の実態⇒方法の工夫

- 櫻井千穂(2018)「外国にルーツをもつ子どものバイリンガル読書力」p125-126  
p260-261



読む⇒内容理解の指標：**あらすじ再生に注目**

**【本実践では】**

⇒**個の実態に応じた方法で「あらすじ」確認**  
(母語活用・対話・書く量を減らす・発信の場の設定)

# 実践の工夫①



- **みんなで**〇〇さつ読もうという取り組み  
【協働】
- **母語**を使って読むことも可  
【多言語の強み】
- **組織的**な実践Umi(国際室)と在籍学級との連携  
【記録・自己実現の場・伝えひろげる】
- 多言語絵本・継承語・母語活用 **家庭学習**も
- 2回読んだら2回カウント リライト活用
- デジタル図書や動画コンテンツも含める

## 実践の工夫② 支援者が心がけたこと

- ゆとりをもつ
- 見守る
- 環境作り(人・絵本等の選定・配置・掲示等)
- 対話・発信

教科とのつながり・必要性・発達段階・母語  
や継承語等





## 実践の工夫③ 組織的に

### 指導部⇒職員会議⇒共通理解

- 3校とも**グランドデザイン**に「特別の教育課程」・「国際理解教育」を位置づけた
- 読書指導における段階的**支援**・教育的配慮  
⇒指導部会・研修部会⇒職員会議で共通理解
- 多読状況についても職員会議や終礼等で話題
- ALTや担任，ペア児童，来室した教職員，保護者等の読み聞かせも随時実施する中で多読プロジェクト関係者を増やす⇒**理解者**も増える
- **組織的に**



# 実施前の子供の姿

(A校前任者・BC校Umi新設校管理職・旧担任の話より)

- 本は**きれい**という子供
- 読み聞かせをしても途中で**あきて**しまう
- 読んであげても**喜ばない**子供
- 読書感想画では絵本と**関係**のないイラストを描いていた
- 「読書の記録」は、**真っ白**なまま
- 多読賞をもらう子供は、**いなかった**
- **来日前・就学前** 家庭内での読書経験**僅少**
- 来日前の学校でも家庭内でも読書経験**豊富**(2名)



# 課題分析⇒手立て

- 読書嫌い・途中であきらめる・喜ばない
- 読書感想画で**関係**のないイラストを描く
- ⇒ **内容理解**ができる絵本・自力で読める絵本
- ⇒ **スモールステップ**・**絵本**に注目
- ⇒ **何度**読んでも可⇒**みんな**で取り組む
- 「読書の記録」は、**真っ白**なまま
- ⇒ Umiでの記録と在籍の記録との**連動**
- 多読賞をもらう子供は、**いなかった**
- ⇒ **学期ごと**多読賞をUmiでも表彰**掲示**



# 実施後の成果（変容した子供の姿）

- 絵本に手が伸びる子供の姿
- 自ら読み聞かせをする姿
- 自分たちで目標冊数を決め読み記録する姿
- 母語で読み聞かせできる自信に満ちた姿
- 母語・継承語で関わりを楽しむ姿
- 読後、どの場面が好きか自ら対話する姿
- 自ら感想画を描く等（OUTPUTする）姿
- 「読書の記録」が進み全員「多読賞」受賞



# 実践方法① 自分たちで目標決め

Umi Dai1の事例: 週1回Umiの教室開催

1年目: みんなで本を読む楽しさを味わった

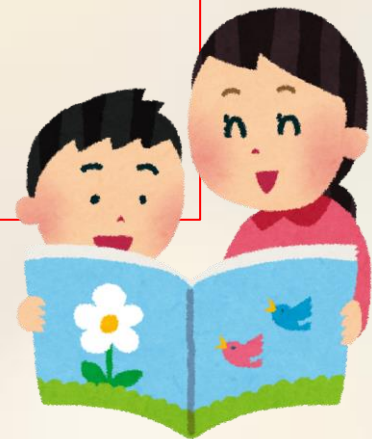
2年目: 自分たちでかなえられそうだという  
自信が生まれた頃に目標冊数を  
設定した。

- 2年目から参加した子供たちもいるので、無理なく 楽しく取り組むことができるようにした。
- 母語で書くのか、絵も描くのか、日本語でどこまで書くのか自分で選択判断し記録。
- 絵本を学びの入口として詳細を一台端末で検索し、母語で確認し合い、Umiの仲間に伝えるために日本語で発表する。みんなでUmi NEWSとしてクラスでも発表した。

**【みんなで〇〇冊】**

A校で11月に  
「みんなで100冊」  
という目標を子供た  
ちが決めた

⇒2024. 2  
200冊完読



# 実践方法② 達成後, 更に目標決め

Umi KAIHOKUの事例 週3回Umiの教室あり

1年目: みんなで200冊完読。

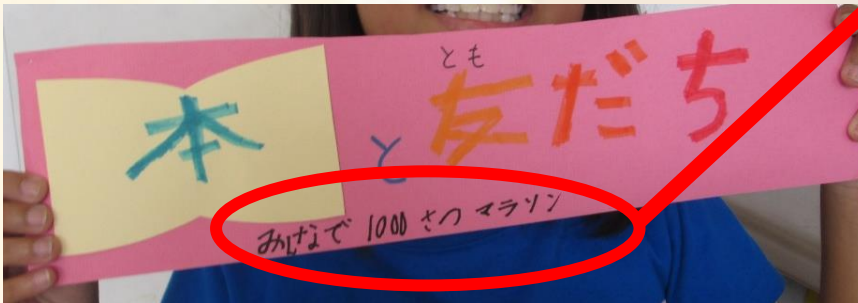
2年目: みんなで200冊からスタート

200冊⇒300冊⇒400冊・・・  
**3月までに1000冊!** (3月達成)

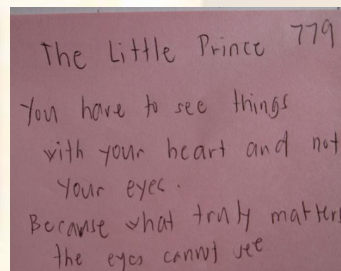
小2の子供たち:  
家でも友達と読書会を自主的に開いていた。転出した友達とオンラインで同じ本を一緒に読むこともしていた。

小6の児童の「多読賞」掲示  
⇒「私も多読賞もらいたいな。」  
⇒「何冊読めばもらえるの？」  
(関心をもつようになった)  
(子供間での情報交換が増えた)

付箋: 専用の記録用紙は不要 添付可



付箋を使って, 読書記録し掲示



私も読んでみたいな

どう思ったの?

# 実践方法③

# スモールステップで

Umi SAWADA の事例  
R5.4 Umi新設  
週1回Umi開催

4月～6月:対象児童3名  
7月～3月:対象児童1名



4月・5月・6月⇒

みんなで読む楽しさを味わうことを優先

## 【手立て】

①好きな本と出会える工夫(教室環境)

- ・文字数に注目
- ・内容理解ができる
- ・「助詞」に注目できる絵本
- ・学校生活で必要な会話のみの絵本

②好きな本のシリーズを

自分が友達に読み聞かせをする体験

③絵を描くことが好きな児童

⇒画用紙いっぱい感想画を描く

⇒Umiに掲示し、担任や級友に披露

④多言語絵本も準備

# 実践方法④ 自分でデザイン

やった！100冊 読んだ！

Umi SAWADA の事例

R5.4 Umi新設

週1回Umi開催

4月～6月：対象児童3名

7月～3月：対象児童1名

3月⇒100冊以上読破(113冊) 多読賞

4～8月  
読むことに慣れる時期と自分でデザイン  
あらすじ再生は、対話実施



はじめての  
あらすじ記録



感想を  
書きたい

6月末⇒Umi取り出し対象が1名のみ  
多読プログラムを自分でデザイン

- ①だれかと読む楽しさをもちたい。
- ②一人で読む力をつけたい。

【支援者の側の手立て】

- ①必要な本と出会える工夫(教室環境)
  - ・教科学習とのリンク(原書等)
  - ・原爆 環境 国際協力 写真絵本
  - ・趣味嗜好 知的好奇心
  - ・理科 社会 総合学習 算数図鑑
- ②Umiのない日に関わる支援者と連携
  - ・本との出会わせ方 印象のたせ方
  - ・管理職との連携
- ③動画コンテンツの翻訳機能活用
- ④多言語絵本, デジタル絵本の活用
- ⑤多読賞の表彰(記録・あらすじノート)  
担任・管理職の意向  
⇒学年児童全体の前で校長から表彰

# 実践方法⑤ OUTPUT



虹の森



灯る木



教室掲示  
舞台背景



だるまさんのて

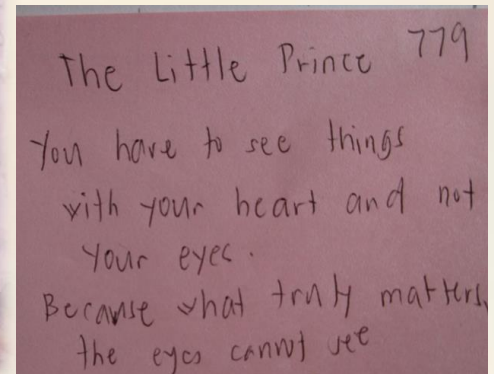
友達が読んだ本を読んでみたい



付箋活用



付箋: タイトルと記名以外は自由 絵も言葉も



どう思ったのかな？



# 多読プログラムにより増えた姿 ①

## 自分達の言語全てを使い考え伝える姿

例) 自分たちの食生活と**環境問題**  
写真絵本との出会い ↓  
正しく知りたい・・・母語で対話

↓  
気づきを伝えずにいられない姿

**トランスランゲージング**  
のレンズで見ると  
見えてくる子供たちの姿

昨年度より、母語・母文化を  
大切な思う言動が増えた

■ クラス・学校へ： 共創の力  
(**母国の絵本紹介・食文化・歌紹介**  
委員会活動・担任や級友が日本語や母語で協働)

**必要な情報を調べ  
読み取り生かす力**

**台風だ！  
どうする？**



ツルボにかいてあったよ  
いっしょに よもう

NHK for School「多文化・多言語な子どもたち  
とどう学ぶ 学習支援のツールボックス」  
⇒NEWS WEB EASY も多読に含めた  
<https://www.nhk.or.jp/school/cld-toolbox/>

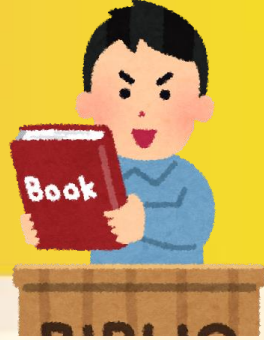
**内容理解⇒思考力**

アイデアを出し合う姿が増えた  
伝える相手によって言葉を選択

# 多読プログラムにより増えた姿 ②

- よく考え、伝えようとする姿
- 進んで対話する姿
- 進んで書こうとする姿
- 進んで発表しようとする姿
- トランスランゲージングで考え  
自分たちの強みを学校生活に生かそうとする姿
- Umiで得た自信⇒在籍学級で伝える姿
- 校内児童・在籍学級の児童と多文化を楽しむ姿  
⇒CLD児の意欲を高める姿





# 今後に向けて

- 課題：更なる個別最適化
- 継続・発展
- 体系化



これから出会う子供の読書経験等の実態を組織的にとらえることで、個別最適な学習支援に生かしていきたい。

多言語絵本・写真絵本・教科につながる学習の素地学習となる本について、職員室内外でも話題にしながら最新の情報を得て協働的に充実させるとともに、教科学習に生かすことができるように年間授業計画に効果的にデザインしていきたい。

小学校だけでなく、中学校ではどうなのかについても実践研究を体系的に進めていきたい。

# 引用文献・参考文献

■ Jim Cummins・中島和子訳(2011)

『言語マイノリティーを支える教育』明石書籍pp.15

中島和子(2022)

『完全改訂版 バイリンガル教育の方法』アルクpp.56

櫻井千穂(2018)「外国にルーツをもつ子どものバイリンガル読書力」

NHK for School「多文化・多言語な子どもたちとどう学ぶ」

<https://www.nhk.or.jp/school/cld-toolbox/>

多言語絵本の会RAINBOW 「ごんぎつね・あめ玉」「にほんむかしばなし」

開北小 <https://swa.numazu-szo.ed.jp/numazu006/weblog>

沢田小 <https://swa.numazu-szo.ed.jp/numazu023/weblog>

第一小 <https://swa.numazu-szo.ed.jp/numazu001/weblog>

